

伝統文化に親しもう

―用具・用材への関心を広げ、
配列・配置に気をつけて書く―

千葉大学准教授 樋口 咲子

1 実践の趣旨

「国語」と「書写」の関連を図るために、「国語」で学習した和歌や俳句、詩や文学作品の一節などを、さまざまな用具・用材を用いて書き、掲示するという取り組みがよく行われている。本稿では、二つの関連にさらに広がりをもたせるため、「貝合わせ」を取り入れた授業を紹介する。貝合わせという伝統的な遊びを通して名言・名句に親しみ、古典に対する理解を深めるとともに、書写のさまざまな用具・用材に関心を広げ、配列・配置を理解して書くことを目指す。

2 「貝合わせ」の教材化

(1) 貝合わせについて

平安時代に貴族の間で行われた「物合わせ」の一つである。元

(4) 制作方法

【用意するもの】

ハマグリ：大きいものを用意する。スーパーマーケットや居酒屋などにおいてもらおうとよい。
和紙：千代紙のほか、和菓子などのきれいな包装紙を活用すると、リサイクルの意識が高まってよい。
その他：毛筆用具、木工用ボンド、金色のラッカー・アクリル絵の具、筆（ボンド用・絵の具用）、小皿（ボンド用・絵の具用）など

【作り方】

- ① 貝を一枚ずつ切り離し（ペアがわかるようにしておく）、外側に金色のラッカーを吹き付ける。重ね塗りするときれいである。
- ② 貝の内側の結合部分や和紙を貼りにくい奥の部分には金色のアクリル絵の具を塗っておく。へ文化祭などで参観者に体験してもらおう場合は、ここまで準備しておく。
- ③ 貝の内側に貼り付ける和紙を適当に破る。平安時代に美しい仮名が書かれた料紙には、数種の料紙を破いて継ぐ「破り継ぎ」という技法がある。そうした伝統も知らせるとよい。
- ④ 木工用ボンドに同量の水を加えてよく混ぜ、筆に含ませて和紙の裏側に塗り、二〜三種類、調和よく貝に重ね貼りする。はみ出た部分ははさみで切って少し内側に押し込む。（貝の縁に和紙があると、一枚の貝を合わせにくくなる。）
- ⑤ よく乾かしてから、筆などで文字を書く。

来、珍しい貝を左右のグループに分かれて出し合い、その美しさを競った遊びのことを言ったが、その後、別の遊びである「貝覆い」との区別がなくなり、「貝覆い」のことも指すようになった。「貝覆い」は、ハマグリの貝殻を切り離したとき、別の貝殻とは合わないという特性を利用した遊びである。貝殻を地貝と出貝に分け、地貝すべてを伏せて並べて、出貝を一個ずつ出し、対になる地貝を多く選んだ人を勝ちとする。貝の裏には、対になるような絵や和歌の上の句・下の句などを分けて書き込み、合わせやすいよう工夫した。



(2) 教材化

二枚で一組になるといふ特性を生かし、俳句・和歌や四字熟語など名言・名句を二枚の貝に分けて書き、貝合わせを行う。これによって、古典の名言・名句に親しむことができ、さらに、貝に文字を書くことにより、書写の用具・用材に対する考えを広げたり、配列・配置の学習効果を上げることも期待できる。

(3) 指導計画

- 第一時 貝合わせの説明をする。貝に金色を塗っておく。
- 第二時 貝に和紙を貼る。書く文字と配置を考える。
- 第三時 貝に文字を書く。貝合わせをして楽しむ。

3 実施にあたって

毛筆で文字を書くことに苦手意識をもっている生徒もいるため、サインペンで書いたり、極細の綿棒にアクリル絵の具をつけて書くなど、用具の範囲を広げる配慮も必要である。また、授業だけでなく、文化祭のワークショップでの感想の一部としても活用できる。以下はそのワークショップでの感想の一部である。興味深く取り組んでいることがわかる。

- くわしく教えてくれたのでよくわかりました。小筆で名前を書くときより、とてもすてきに字が書けました。(小3・男子)
- 少し難しかったけど、できあがったときはとてもうれしかったです。今、学校で百人一首をやっているの、これを学校に持っていけば、みんな「やりたい！」と言ってくれると思います。(小5・女子)

○高校で書道を選択している、書にとっても興味があります。とても楽しく、いい作品を作らせていただき、ありがとうございます。ぜひ、高校の授業に持っていきたいと思います。(高2・女子)

